

設置計画の概要

事 前 相 談 事 項		記 入 欄										
事 前 相 談 事 項		事前伺い										
計 画 の 区 分		研究科の設置										
フ リ ガ ナ 設 置 者		コクリツダ イガクホクシシン ヤマグチダ イガク 国立大学法人 山口大学										
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ヤマグチダ イガクダ イガクイン 山口大学大学院 (Graduate School of Yamaguchi University)										
新 設 学 部 等 に お い て 養 成 す る 人 材 像		【共同獣医学研究科獣医学専攻】 ①養成する人材 世界先端的な獣医学研究を推進し、高い生命倫理と研究者倫理を備え、国際水準の獣医学教育の発展と深化に寄与する獣医学教育・研究者、及び獣医学の高度化に資する獣医学専門家ならびに獣医療人を養成する。 ②習得させる能力 ・獣医学(動物)に関する最先端の科学技術、及びそれらへの対応能力 ・生命の科学的理解と論理的思考に基づき、研究者あるいは高度専門家として、自ら問題意識を持ち、獣医学を取り巻く諸問題に対応または解決できる能力 ・獣医学・獣医療分野で研究の国際化に対応できる、実践的な英語及びコミュニケーション能力 ・社会で活躍できるリーダーとしての能力 ③修了後の進路 ・大学教育研究職員 ・研究所・団体等研究員 ・民間企業研究職 ・公共獣医事に携わる獣医師 ・産業動物又は伴侶動物臨床において指導的立場に立つ獣医師										
		【連合獣医学研究科獣医学専攻】 ①養成する人材 獣医学に関する高度の、専門的能力と豊かな学識を備え、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って、社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究をなし得る研究者を養成する。 ②習得させる能力 ・獣医学の専門分野における高度の専門知識と技術 ・専門分野に関連した高度の専門知識と技術 ・獣医学的課題に対応できる課題解決力 ・国際的課題に対応できる課題解決力と国際性 ・自立した基礎・病態・予防・臨床獣医学研究者としての研究能力 ③修了後の進路 ・大学教員(基礎獣医学・病態・予防獣医学教育・臨床獣医学) ・研究所・団体等研究員 ・民間企業研究職 ・公共獣医事に関わる獣医師 ・動物病院において指導的立場に立つ獣医師										
既 設 学 部 等 に お い て 養 成 す る 人 材 像												
新 設 学 部 等 に お い て 新 取 得 可 能 な 資 格		なし										
既 設 学 部 等 に お い て 取 得 可 能 な 資 格		なし										
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	共同獣医学研究科 [Joint Graduate School of Veterinary Medicine]	獣医学専攻 [Major of Veterinary Medicine]	4	6	-	24	博士 (獣医学)	獣医学関係	平成30年 4月	連合獣医学研究科獣医学専攻	37	14
										計	37	14
	等既設の設 概学部要部	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員	
学位又は称号								学位又は学科の分野	異動先		助教以上	うち教授
連合獣医学研究科		獣医学専攻	4	12	-	48	博士 (獣医学)	獣医学関係	平成2年 4月	共同獣医学研究科獣医学専攻	37	14
									計	37	14	
【備考欄】 ・入学定員の変更 (改組前) 連合獣医学研究科獣医学専攻 入学定員 12名 (改組後) 共同獣医学研究科獣医学専攻 入学定員 6名 連合獣医学研究科獣医学専攻 入学定員 4名 ・大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施												

教育課程等の概要（共同学科等）

（共同獣医学研究科獣医学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共同 教育 科目	基礎獣医学特別講義（動物細胞機能学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○				1				鹿大メディア
	基礎獣医学特別講義（発生遺伝学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	基礎獣医学特別講義（神経生理学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	基礎獣医学特別講義（細胞生化学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	基礎獣医学特別講義（生物機能薬理学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（病原微生物学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（実験病理学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（動物衛生学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（感染免疫学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（病原細菌学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	応用獣医学特別講義（実験動物医学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（低侵襲外科学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○				1				鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（腫瘍外科学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（獣医内科学診断治療学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（小動物臨床免疫学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（寄生虫学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（進化系統寄生虫学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○				1				鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（産業動物獣医学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○			1					鹿大メディア
	臨床獣医学特別講義（繁殖生理管理学特別講義）	1・2・3前・後	山口大学	2			○				1				鹿大メディア
	基礎獣医学特別講義（比較解剖学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	基礎獣医学特別講義（感覚生理学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	基礎獣医学特別講義（比較薬理学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	基礎獣医学特別講義（分子細胞生物学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	基礎獣医学特別講義（生化学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	基礎獣医学特別講義（実験動物学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	基礎獣医学特別講義（ゲノム医学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	基礎獣医学特別講義（細胞薬理毒性学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	応用獣医学特別講義（衛生微生物学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	応用獣医学特別講義（原虫病学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	応用獣医学特別講義（感染症学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	応用獣医学特別講義（ウイルス学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	応用獣医学特別講義（獣医ウイルス学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	応用獣医学特別講義（寄生虫病学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	応用獣医学特別講義（腫瘍病理学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	応用獣医学特別講義（感染性微生物学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	臨床獣医学特別講義（家畜臨床生化学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	臨床獣医学特別講義（内科診断学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	臨床獣医学特別講義（臨床細胞学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	臨床獣医学特別講義（大動物内科学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	臨床獣医学特別講義（比較病態解析学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	臨床獣医学特別講義（外科診断治療学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	臨床獣医学特別講義（分子診断治療学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
	臨床獣医学特別講義（運動器診断治療学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○				1				山大メディア
	臨床獣医学特別講義（発生工学特別講義）	1・2・3前・後	鹿児島大学	2			○			1					山大メディア
専門 教育 科目	研究者行動規範特論	1・2・3前・後	山口大学	1			○			1					鹿大メディア
	知的財産特論	1・2・3前・後	山口大学	1			○			1					鹿大メディア
	専門科学英語スキル	1・2・3前・後	各大学	1			○			1					兼1 集中
先端 実用 科目	プレゼンテーションスキル	1・2・3前・後	各大学	1				○		2					
	学術情報収集スキル	1・2・3前・後	各大学	1				○		2					
	機関研修スキル	1・2・3前・後	各大学	1				○		2					
特別 専修 科目	特別専修スキル	1・2・3前・後	各大学		3			○		4	1				共同
	小計（51科目）	—	—	3	94			—		27	17	0	0	0	兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
コース科目（研究推進科目）	基礎獣医学特別演習（動物細胞機能学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			1				共同
	基礎獣医学特別演習（発生遺伝学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			1				
	基礎獣医学特別演習（神経生理学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（細胞生化学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（生物機能薬理学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1	1				共同
	基礎獣医学特別実験（動物細胞機能学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（発生遺伝学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（神経生理学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（細胞生化学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					共同 共同
	基礎獣医学特別実験（生物機能薬理学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1	1				
	基礎獣医学特別演習（比較解剖学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1			1		
	基礎獣医学特別演習（感覚生理学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（比較薬理学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					共同
	基礎獣医学特別演習（分子細胞生物学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（生化学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（実験動物学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	基礎獣医学特別演習（ゲノム医科学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				共同
	基礎獣医学特別演習（細胞薬理毒性学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				
	基礎獣医学特別実験（比較解剖学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1			1		
	基礎獣医学特別実験（感覚生理学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（比較薬理学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					共同 共同 共同 共同
	基礎獣医学特別実験（分子細胞生物学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（生化学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				
	基礎獣医学特別実験（実験動物学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	基礎獣医学特別実験（ゲノム医科学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				兼1 共同 共同 共同
	基礎獣医学特別実験（細胞薬理毒性学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				
	応用獣医学特別演習（病原微生物学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1	1		1		
	応用獣医学特別演習（実験病理学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1			2		
	応用獣医学特別演習（動物衛生学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		2			1		兼1 共同 共同 共同
	応用獣医学特別演習（感染症学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			1		1		
	応用獣医学特別演習（病原細菌学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1	1		1		
	応用獣医学特別演習（実験動物医学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					
	応用獣医学特別実験（病原微生物学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1	1		1		兼1 共同 共同 共同
	応用獣医学特別実験（実験病理学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1			2		
	応用獣医学特別実験（動物衛生学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	2			1		
	応用獣医学特別実験（感染症学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○		1		1		
	応用獣医学特別実験（病原細菌学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1	1		1		共同 共同 共同
	応用獣医学特別実験（実験動物医学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1					
	応用獣医学特別演習（衛生微生物学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	応用獣医学特別演習（原虫病学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			2				
	応用獣医学特別演習（感染症学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					共同 共同 共同 共同
	応用獣医学特別演習（ウイルス学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				
	応用獣医学特別演習（獣医ウイルス学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				
	応用獣医学特別演習（寄生虫病学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			2				
	応用獣医学特別演習（腫瘍病理学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1	1		1		共同 共同 共同 共同
	応用獣医学特別演習（感染性微生物学特別演習）	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				
	応用獣医学特別実験（衛生微生物学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	応用獣医学特別実験（原虫病学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		2				
	応用獣医学特別実験（感染症学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					共同 共同 共同 共同
	応用獣医学特別実験（ウイルス学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				
	応用獣医学特別実験（獣医ウイルス学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				
	応用獣医学特別実験（寄生虫病学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		2				
	応用獣医学特別実験（腫瘍病理学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1	1		1		共同 共同 共同 共同
	応用獣医学特別実験（感染性微生物学特別実験）	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				
	臨床獣医学特別演習（低侵襲外科学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			2		3		
	臨床獣医学特別演習（腫瘍外科学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1			1		
	臨床獣医学特別演習（獣医内科診断治療学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1	1				共同 共同 共同 共同
	臨床獣医学特別演習（小動物臨床免疫学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1			1		
	臨床獣医学特別演習（寄生虫学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1					
	臨床獣医学特別演習（進化系統寄生虫学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			1				
	臨床獣医学特別演習（産業動物獣医学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○		1	1				共同 共同 共同 共同
	臨床獣医学特別演習（繁殖生理管理学特別演習）	1・2・3通	山口大学		2			○			1				
	臨床獣医学特別実験（低侵襲外科学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○		2		3		
	臨床獣医学特別実験（腫瘍外科学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1			1		
	臨床獣医学特別実験（獣医内科診断治療学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1	1				共同 共同
	臨床獣医学特別実験（小動物臨床免疫学特別実験）	1・2・3通	山口大学		2				○	1			1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
コ ー ス 科 目 (研 究 推 進 科 目)	臨床獣医学特別実験 (寄生病学特別実験)	1・2・3通	山口大学		2				○	1					共同
	臨床獣医学特別実験 (進化系統寄生虫学特別実験)	1・2・3通	山口大学		2				○		1				
	臨床獣医学特別実験 (産業動物獣医学特別実験)	1・2・3通	山口大学		2				○	1	1				
	臨床獣医学特別実験 (繁殖生理管理学特別実験)	1・2・3通	山口大学		2				○		1				共同
	臨床獣医学特別演習 (家畜臨床生化学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	臨床獣医学特別演習 (内科診断学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1			1		
	臨床獣医学特別演習 (臨床細胞学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1				共同
	臨床獣医学特別演習 (大動物内科学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1			1		
	臨床獣医学特別演習 (比較病態解析学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1		1		
	臨床獣医学特別演習 (外科診断治療学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1	1		1		共同
	臨床獣医学特別演習 (分子診断治療学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1					
	臨床獣医学特別演習 (運動器診断治療学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○			1		1		
	臨床獣医学特別演習 (発生工学特別演習)	1・2・3通	鹿児島大学		2			○		1	2				共同
	臨床獣医学特別実験 (家畜臨床生化学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	臨床獣医学特別実験 (内科診断学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1			1		
	臨床獣医学特別実験 (臨床細胞学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1				共同
	臨床獣医学特別実験 (大動物内科学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1			1		
	臨床獣医学特別実験 (比較病態解析学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1		1		
	臨床獣医学特別実験 (外科診断治療学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1	1		1		共同
	臨床獣医学特別実験 (分子診断治療学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1					
	臨床獣医学特別実験 (運動器診断治療学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○		1		1		
	臨床獣医学特別実験 (発生工学特別実験)	1・2・3通	鹿児島大学		2				○	1	2				共同
	小計 (88科目)	—			176			—		28	29	0	18	0	兼1
合計 (139科目)		—		3	270			—		28	29	0	18	0	兼2
学位又は称号		博士 (獣医学)		学位又は学科の分野				獣医学関係							
(注)															
・「開設大学」欄の「各大学」は、授業科目の概要を同一にし、それぞれの大学で当該科目を開設する科目。															
・「備考」欄の「山大メディア」は、山口大学ではメディア授業、鹿児島大学では対面授業を行う科目。															
・「備考」欄の「鹿大メディア」は、鹿児島大学ではメディア授業、山口大学では対面授業を行う科目。															

I. 設置の趣旨・必要性

(1) 社会的背景と設置の必要性

獣医学は、生物学を基盤とする応用動物科学であり、生命科学研究推進の中核的役割を担うとともに、人類と動物の関係を考究し、動物の健康を通じて人間社会の健全性と福祉に貢献する学問領域である。獣医学系大学院研究科が、本学問領域を発展・展開させる場として、次世代の獣医学研究と教育システムの開発・構築を担うことは言うまでもない。

社会のグローバル化は「食」及び「動物由来感染症」のボーダーレス化を生み、「食資源の確保とその安全性」や「感染症の防御・制圧」が、獣医学に課せられた喫緊かつ永続的課題となり、2020年の東京オリンピックをはじめとする国際的に開催されるスポーツ・文化大会や政治的国際会議でさえその対象となっている。これを含めた時代の社会ニーズに即応できる獣医学を構築するには、ライフサイエンスの基盤となる基礎獣医学、感染症制御に向けた応用獣医学、食の安定供給に関わる産業動物臨床獣医学、福祉・比較医科学に貢献する伴侶動物臨床獣医学を発展・展開させることが必須であり、各個の研究発展とこれに携わる高級技術者としての獣医学専門家の人材育成が研究科としての使命である。

我が国の獣医学は、アジアの拠点として国際的リーダーシップを取るべき立場にあり、畜産物輸入拠点である福岡に隣接する山口大学と、日本屈指の畜産県に位置する鹿児島大学に設置される研究科が、地理的にもアジアからの防疫の教育・研究推進拠点として極めて重要な位置を占める大学であることは言うまでもない。

両大学は、合致する教育目標、すなわち「個性あふれる専門性と社会性、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を有し、地域社会及び国際社会の発展に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育成する。(山口大学)」,「幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育む。豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度を養う。地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養う。グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育む。(鹿児島大学)」を掲げている。

加えて、山口大学憲章には、「基礎的・学術的研究及び社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元する」、鹿児島大学憲章には、「地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。」という研究目標を掲げている。

山口大学と鹿児島大学は、共同獣医学部を形成し、獣医学教育の方法と内容を国際水準のものとすべく、EAEVEによる認証取得に向けて教育改革を推進している。次のステップとして、国際認証教育を教授された共同獣医学部卒業生のための、国際水準の卒業教育を提供する共同獣医学研究科設置が緊要である。世界先端的な獣医学研究を推進し、生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成と、地域・国際社会における多様な獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家及び獣医療人の養成が、新たな共同獣医学研究科に課せられた任と言える。

(2) 教育理念と人材養成

山口大学及び鹿児島大学共同獣医学研究科は、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」ことを基本理念として、「世界先端的な獣医学研究を推進し、高い生命倫理と研究者倫理を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成を通じて国際水準の獣医学教育の発展と深化に寄与し、又は高度獣医学専門家としての学識と研究能力を有する指導的獣医療人を輩出して地域・国際社会の獣医学的課題の解決を図り、以て人間地球社会の発展に貢献する」ことを教育理念とする。具体的には、「次代の獣医学教育・研究者の養成に留まらず、高度獣医学専門家としての学識・技能・実務能力を身につけた指導的獣医療人を輩出して、豊かな人間地球社会の発展に貢献する」ことを企図する。

研究者養成プログラムにおいて、国内外研究機関研修や学会発表等を通じて先端的な学術研究を体感させて各自の研究を遂行し、学位授与にあたっては国際学術誌への公表を義務化し、世界トップレベルの獣医学研究を推進する。また、AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会 Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care Internationalの略) 認証制度、及びCITI (Collaborative Institutional Training Initiativeの略) Japan Programを通じて高い生命倫理と研究者倫理の醸成を促すとともに、特別講義・演習を通じて教育者・研究者としての幅広い知識と教養、論理的思考を修得させる。これに実験動物医学専門医、病理学専門医、または臨床専修医としての理論と実践力を教授する高度獣医学専門家養成プログラムを加え、教育理念の達成を図る。

具体的には、以下の人材養成を行う。

- 1) 豊かな人間性と生命・研究への高い倫理観を備え、世界先端的な専門知識と技能を身につけた先導的獣医学教育・研究者の養成。
- 2) 動物生命科学研究を実践し、諸課題を解決するための探究心と独創性を備えた獣医学研究者及び高度獣医学専門家の養成。
- 3) 応用獣医学分野における先端的知識と技能を備えた獣医学研究者及び高度獣医学専門家の養成。
- 4) 高度動物医療の先端的知識と技術を備えた臨床獣医学研究者及び指導医の人材となる獣医療人の養成。

II. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の考え方

共同獣医学研究科では、両大学の立地環境と地域性に特徴的な教育研究資源を活用した教育課程を編成する。山口大学では伴侶動物獣医学及び公衆衛生学に関連した特徴ある教育プログラムを、鹿児島大学では産業動物獣医学及び動物衛生学に特徴ある教育プログラムを相互提供して、大学院教育の質の向上と学問領域の拡大を図る。

「獣医学コース」は、基礎獣医学、応用獣医学、及び臨床獣医学を配し、先進的な研究を通じて我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。加えて、「新時代の大学院教育／平成17年9月中央教育審議会」や「平成26年度獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」における提言を勘案し、実験動物の健康と福祉、動物実験倫理、動物実験施設管理を担う実験動物医学専門医、高度な病理学的診断の知識と技術を修得し、病性鑑定や疾病診断を通じて公衆衛生獣医学や臨床獣医学領域で活躍する病理学専門医等的高度獣医学専門家、及び先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する「獣医学専修コース」を編成する。

共同獣医学研究科の教育課程には、「共通科目」と「コース科目」を設ける。

「共通科目」は、獣医科学コース及び獣医学専修コースに共通した2つの科目群（「共同教育科目」14単位、「専門教養科目」3単位）と、各コース別の「先端実践科目」または「特別専修科目」（3単位）から構成され、いずれも両大学の教育研究資源を活かした体系的な履修を可能とする。

「コース科目」は、研究指導教員が開講する共同教育科目の特別講義と、研究推進科目である特別演習・実験からなる（計10単位）。共同教育科目及び研究推進科目は、両大学の教員が開講する各研究部門に関連した講義、演習、実験科目を通じて専門性の高い授業を行う。「共通科目」のうち、専門教養科目は、博士課程において高度な獣医学の技術と知識を修得する際に、必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、及び英語力について、学部教育をさらに発展させた授業を行う。また、「先端実践科目」は、両大学の立地環境を活かして国や地方の研究機関並びに海外の教育研究機関等の連携協力を仰ぐ。これらの科目を体系的に履修させる指導体制を充実し、学生が履修する専門分野の基礎的素養の涵養を図り、さらに自らの研究の社会的意義付けを意識させる内容とする。「特別専修科目」は、国内に整備された各種専門医資格の認定に求められる実践的能力を培うための授業科目として、獣医科学コースにおける共通科目の先端実践科目に替えて履修する。

授業形態は、講義（対面講義、メディア講義、ビデオ・オン・デマンド、Eラーニングシステム等）、演習（ゼミ方式、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング等）、実験（ラボワーク、クリニカルワーク、フィールドワーク等）、実践（学術集会発表、学術集会参加、国内外研究機関での研究指導等）とする。学士課程において、共同獣医学部で修得した獣医師として働けるべき必須の知識と技術をさらに発展させるために、講義ではより高度で最先端の獣医学的な知識を幅広く修得させるとともに、研究者としての倫理観を成熟させるように編成した。演習及び実験では、学生が目指す研究分野をより深く探究することに加えて、他者に表現する能力を身に付けるように編成している。実践では、研究成果を学術集会や学術雑誌に発表・公表し、さらに所属大学の共同獣医学研究科施設以外の国内外研究機関における研究指導等を通じて研究領域を広く発展させるように編成した。なお、「特別専修科目」では、獣医学専修コースの学生が、山口大学共同獣医学部に附設する獣医学国際教育研究センター（iCOVER: International Center of Veterinary Education and Research, 先端実験動物研究施設を含む。）及び動物医療センター、鹿児島大学共同獣医学部に附設する動物病院（小動物診療センター、大動物診療センター、軽種馬診療センター、及び大隅産業動物診療研修センターから構成）、TAD制御研究センター、及び総合動物実験施設が所管する最先端の実験検査機器並びにフィールドを十分に活用できる体制を整え、実践・研究活動を支援する。

以上により、学生が自立的にさらに高いレベルでの研究及び博士論文作成に取組む一方で、両大学の教員が連携を強固にして学生の研究活動を多面的にサポートする体制をとる。

また、学部からの進学者及び卒業後実務経験のある社会人獣医師（大学院設置基準第14条特例を実施）を入学者として想定したカリキュラムとなっており、修了要件単位数は30単位以上、そのうち10単位以上は相手大学開講科目の単位を取得するものとする。

(2) 教育課程の特色 【共通科目：共同教育科目】 共同教育科目は、両大学の教員が開講する講義科目を通じて、専門とする学問領域以外の幅広く高度な獣医学的な知識を修得させ、高度な研究者及び優れた獣医学専門家としての人材養成を図る。この授業科目を履修することにより、共同獣医学部の卒業者は、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム及びVEAVE認証の基準に即し、国際的通用性と信頼性を有する共同教育課程で修得した知識をさらに深める。また、共同獣医学部以外の卒業生、留学生、社会人学生においては、博士課程の研究者及び高度獣医学専門家としての知識を補完することができる。 【共通科目：専門教養科目】 専門教養科目は、学部教育において修得した生命及び獣医倫理観や基礎的な英語力を発展させるために授業を行う。この授業科目を履修することにより、高度な技術と知識を修得する際に必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、国際的な通用性を有する英語力について、学部教育をさらに発展させたものを身につけることができる。 【共通科目：先端実践科目】※獣医科学コース 先端実践科目は、研究をさらに広く高度に発展させるために、学術集会における研究成果の発表、あるいは所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を単位認定する。第二副指導教員（他大学の副指導教員）の研究室における研究指導も申請可能であり、社会人学生に関しては、職場での特別な業務研修や獣医師としての卒後教育としての技術指導も認定可能とする。この授業科目を履修することにより、学生は幅広い視野を持った高度な研究能力や国際的に活躍するための実践的な能力を身につけることができる。 【共通科目：特別専修科目】※獣医専修コース 獣医学専門家及び獣医療人養成のために、各種専門医資格の認定に求められる実践的能力を培うための授業科目として、山口大学ではiCOVER及び動物医療センター、鹿児島大学では総合動物実験施設、TADセンター、及び附属動物病院において、獣医科学コースにおける先端実践科目に替えて履修する。専門家資格取得によって内容の異なる高度獣医学専門家養成プログラムとなっており、各学会における発表等の実績評価も含む。 具体的には、以下のとおりとする。 実験動物医学専門医資格取得のために、日本実験動物医学専門医協会が定める資格審査基準（獣医師免許を保有し、出願時に3年以上継続して日本実験動物医学学会会員として実験動物医学専門医資格単位基準を履修すること。）を満たすための特別専修科目（実験動物医学専門医養成プログラム）を設定する。山口・鹿児島両大学は、AAALAC International認証に対応できる動物実験施設を有しており、同施設における実験動物医学専門医となるための実務を履修する。 日本獣医病理学専門医協会会員資格取得のために、日本獣医病理学専門医協会が定める会員資格認定試験受験ガイドラインに従い、受験資格を満たすための特別専修科目を構成する。認定試験受験のためには、獣医病理学に関する専門的研究または専門的職業に3年以上従事しなければならないことから、特別専修科目において病理診断の実務及び研究を実施する。同協会規約に定める研究及び研修歴に加えて、指定される研究会や同協会主催セミナーに規定回数以上参加させる。学位論文の骨子となる研究論文は、レフリー制度の確立した学術雑誌の獣医病理学（実験動物学及び毒性を含む。）分野に関する筆頭著者論文として公表する。 臨床獣医学における専修医養成のための特別専修科目では、研究科在学期間中に両大学の附属動物医療センター及び動物病院において、臨床専修医としての動物医療を行う。獣医外科学または獣医内科学の各診療科が設定する専修医教育プログラムの履修項目を履修する。 【コース科目：研究推進科目】 研究推進科目は、学生が目指す研究領域において、研究推進のための高度な専門的知識と技術を修得する。この授業科目を履修することにより、学生は多方面からの指摘や意見を取り入れてそれまでの研究内容を顧みつつ研究をさらに発展させ、研究指導教員と協力しながら博士論文を作成できるようにする。なお、コース科目には、研究指導教員の特別講義の履修も含まれる。また、この特別講義は共同教育科目と同様に、メディア授業形式で行う、あるいはビデオ・オン・デマンドやeラーニングシステムによる受講を可能とする。				
修了要件及び履修方法	開設大学	開設単位数（必修）	授業期間等	
1. 修了要件は、共同獣医学研究科の教育課程において、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することとする。 なお、30単位以上のうち、10単位以上は相手大学の単位とする。 2. 履修方法は、共通科目を20単位以上、コース科目（一部共通科目含む。）を10単位以上、それぞれ修得することとし、内訳は以下のとおりとする。 <共通科目…20単位以上> ・共同教育科目 14単位以上（※必修…所属大学6単位、相手大学8単位） ・専門教養科目 3単位 ・先端実践科目 3単位 ※ 獣医科学コースのみ必修 ・特別専修科目 3単位 ※ 獣医専修コースのみ必修 <コース科目…10単位以上（一部共通科目含む。）> ・研究推進科目（特別演習、特別実験）及び共通科目（特別講義）のうち、主指導教員が開講する特別講義（1科目2単位）、特別演習（1科目2単位）及び特別実験（1科目2単位）、さらに両大学の副指導教員が開講する特別講義（2科目4単位）を必修とする。	山口大学	123（3）	1 学年の学期区分	2 学期
	鹿児島大学	157（1）	1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要（事前伺い）														
(既設 連合獣医学研究科獣医学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎獣医学講座	基礎獣医学特別講義Ⅰ	1・2・3前・後		2		○			4	3				兼1
	基礎獣医学特別講義Ⅱ	1・2・3前・後		2		○			3	1				
	基礎獣医学特別講義Ⅲ	1・2・3前・後		2		○			6	1				
	基礎獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3前・後		1			○		5	4				兼1
	基礎獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3前・後		1			○		3	1				
	基礎獣医学特別演習Ⅲ	1・2・3前・後		1			○		6	4	1			
	基礎獣医学特別実験Ⅰ	1・2・3前・後		1				○	5	4				兼1
	基礎獣医学特別実験Ⅱ	1・2・3前・後		1				○	3	1				
	基礎獣医学特別実験Ⅲ	1・2・3前・後		1				○	6	4	1			
	小計（9科目）	—	0	12	0	—			14	9	1	0	0	兼1
病態・予防獣医学講座	病態・予防獣医学特別講義Ⅰ	1・2・3前・後		2		○			6	4				
	病態・予防獣医学特別講義Ⅱ	1・2・3前・後		2		○			3	1				
	病態・予防獣医学特別講義Ⅲ	1・2・3前・後		2		○			4					
	病態・予防獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3前・後		1			○		6	6				
	病態・予防獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3前・後		1			○		3	2				
	病態・予防獣医学特別演習Ⅲ	1・2・3前・後		1			○		4	3	1			
	病態・予防獣医学特別実験Ⅰ	1・2・3前・後		1				○	6	7				
	病態・予防獣医学特別実験Ⅱ	1・2・3前・後		1				○	3	2				
	病態・予防獣医学特別実験Ⅲ	1・2・3前・後		1				○	4	3	1			
	小計（9科目）	—	0	12	0	—			13	12	1	0	0	
臨床獣医学講座	臨床獣医学特別講義Ⅰ	1・2・3前・後		2		○			9	5				兼1
	臨床獣医学特別講義Ⅱ	1・2・3前・後		2		○			6	3				兼1 兼1
	臨床獣医学特別講義Ⅲ	1・2・3前・後		2		○			2	1				
	臨床獣医学特別演習Ⅰ	1・2・3前・後		1			○		9	7				
	臨床獣医学特別演習Ⅱ	1・2・3前・後		1			○		6	7				兼1 兼1
	臨床獣医学特別演習Ⅲ	1・2・3前・後		1			○		2	1				
	臨床獣医学特別実験Ⅰ	1・2・3前・後		1				○	9	7				
	臨床獣医学特別実験Ⅱ	1・2・3前・後		1				○	6	7				兼1
	臨床獣医学特別実験Ⅲ	1・2・3前・後		1				○	2	1				
	小計（9科目）	—	0	12	0	—			17	15	0	0	0	兼2
獣医学共通ゼミナール	最新の基礎獣医学	1・2・3前		3		○			2					集中 オムニバス 集中 オムニバス 集中 オムニバス 集中 オムニバス
	最新の病態獣医学	1・2・3前		3		○			2					
	最新の予防獣医学	1・2・3前		3		○			2					
	最新の臨床獣医学	1・2・3前		3		○			2					
	小計（4科目）	—	0	12	0	—			8	0	0	0	0	
ゼミナール特別	獣医学特別ゼミナール	1・2・3前	1			○			2					集中 オムニバス
	小計（1科目）	—	1	0	0	—			2	0	0	0	0	
合計（32科目）		—	1	48	0	—			44	36	2	0	0	兼3
学位又は称号		博士（獣医学）		学位又は学科の分野				獣医学関係						

学生の確保の見通し等を記載した書類

国立大学法人山口大学
大学院共同獣医学研究科

目 次

I	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①	学生確保の見通し	1
ア)	定員充足の見込み	1
(1)	入学定員及び収容定員	1
(2)	アンケート調査等を踏まえた見込み（まとめ）	1
イ)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
(1)	山口連獣における入学者の実績	2
(2)	アンケート調査の実施	3
(2-1)	在学生へのアンケート調査の結果	4
(2-2)	社会人へのアンケート調査の結果	5
(2-3)	国外獣医系大学へのアンケート調査の結果	7
ウ)	学生納付金設定の考え方	7
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	8
(1)	学生の確保	8
II	人材需要の動向等社会の要請	9
①	人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）	9
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	9
ア)	人材需要の動向と社会の要請（まとめ）	9
イ)	人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	10
(1)	人材の養成に関する社会的な要請	10
(2)	山口連獣における修了者の実績	12
(3)	企業等へのアンケート調査の結果	14
(4)	国外獣医系大学へのアンケート調査の結果	17

学生の確保の見通し等を記載した書類

I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

(1) 入学定員及び収容定員

山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における入学定員は、表 1 のとおり、山口大学 6 人、鹿児島大学 6 人の合計 12 人、収容定員は全体で 48 人と設定した。

表 1：入学定員及び収容定員 (単位：人)

大 学 名	定 員	
	入学定員	収容定員
山口大学	6	24
鹿児島大学	6	24
計	12	48

(2) アンケート調査等を踏まえた見込み (まとめ)

現在、山口大学及び鹿児島大学は、山口大学大学院連合獣医学研究科（以下「山口連獣」という。）の基幹校及び構成校として獣医学分野の研究者養成を行っている。両大学による新たな共同獣医学研究科における入学定員の設定にあたり、学生確保の見通しを明らかにするため、山口連獣における過去 5 年間の入学者の実績を踏まえつつ、平成 28 年 10 月から 11 月にかけて、山口大学・鹿児島大学共同獣医学部在校生（3～6 年生）、社会人（獣医師会、地方自治体、NOSAI、関連企業等）、国内外獣医学系大学にアンケート調査を行った。その結果、共同獣医学部在学生（224 人）、獣医関係社会人（1,800 人）、国内獣医学系大学（151 人）、及び国外獣医学系大学（176 人）、合計 2,351 人からの回答を得た。

山口連獣における過去 5 年間の平均入学者数は、山口大学 10.0 人、鹿児島大学 5.8 人、2 大学 15.8 人であった（表 3）。

共同学部に接続した共同研究科を設置することで、卒業生は母校の大学院への進学が可能となり、学部からの内部進学希望者が増えることが期待される。山口連獣における学部からの内部進学者数の 5 年平均は、山口大学 3.4 人、鹿児島大学 1.0 人、2 大学 4.4 人となっている。共同獣医学部 3～6 年生に実施したアンケート結果によると、各大学における新たな内部進学希望者数は、山口大学 -0.6 人、鹿児島大学 2.0 人、2 大学 1.4 人と見込まれた（表 7）。

地域密着型の共同研究科を設置することによって、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数の見込みが増えることが期待される。山口連獣における山口県在住社会人の山口大学入学者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学者数は、それぞれ 0.6 人及び 1.2 人となっている。新たな共同獣医学研究科について社会人に実施したアンケート結果では、新たな山口県在住社会人の山口大学入学希望者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学希望者数は、それぞれ山口大学-0.1 人、鹿児島大学 0.5 人となった（表 11）。また山口連獣における両大学への全国からの社会人入学者は 5.8 人で

あったのに対して、同アンケートにおける全国社会人の本共同獣医学研究科への入学希望者も 5.8 人であり、共同研究科においても全国からの社会人入学者数を山口連獣と同程度に確保できることが想定された（表 11）。

山口連獣の修了生による海外ネットワーク等の活用により、新たな共同獣医学研究科においても海外からの多くの留学生を引き続き入学者として受け入れることができると期待している。山口連獣における留学生数の平均は、山口大学 2.6 人、鹿児島大学 1.8 人、2 大学 4.4 人となっている。海外ネットワークを通じて行った外国人を対象としたアンケート結果では、留学生の共同研究科への入学希望者数は 13.9 人であり、新たに 9.5 人の新規留学生の入学希望が見込まれる（表 12）。

以上、表 2 に示すように、山口連獣の実績に加えて、内部進学者数、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数、及び山口連獣修了生による海外ネットワークを通じた留学生入学者数が増える見通しであり、山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科の入学定員を各 6 人としたときに、志願倍率は少なくとも、山口大学 1.55 倍、鹿児島大学 1.38 倍、2 大学合わせて 2.23 倍が見込まれる。よって、共同研究科において設定した入学定員については、構成大学のいずれも適切な選抜が行われた上で、質を担保しつつ安定的に確保することが可能である。

表 2：総表（1 年あたり）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学
山口連獣の実績(表 3)	10.0	5.8	15.8
新規内部進学見込者(表 7)	-0.6	2.0	1.4
同県在住新規社会人入学見込者(表 11)	-0.1	0.5	—
全国社会人入学見込み者(表 11)	—	—	0.0
新規留学生見込者(表 12)	—	—	9.5
合 計	9.3	8.3	26.7
入学定員	6	6	12
志願倍率	1.55	1.38	2.23

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の「議論のまとめ」（平成 26 年度）によると、平成 21～25 年度の獣医系大学院への入学者数は 679 人（日本人 520 人、留学生 159 人、年平均 135.8 人）であり、国内大学を卒業した者が全体の約 4 割、国内の社会人経験者が約 3 割強、外国からの留学生が約 2 割強という構成比となっている。この構成比の大学ごとの特徴は比較的顕著であり、多くの私立大学の大学院が国内大学からの進学者によって占められている一方、国公立大学の中には、社会人経験者を多く集めている大学院や、留学生の構成比が高い大学院も見受けられる。

（1）山口連獣における入学者の実績

平成 24～28 年度における山口連獣の両大学への配置学生に係る実績としての平均入学者数は、表 3 に示すように、山口大学 10.0 人、鹿児島大学 5.8 人、合計 15.8 人であり、今回設定した入学定員数（12 人）を上回る入学実績を既に有している。

表 3：山口連獣入学者等の実績

(単位：人)

区 分	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平均入学者数
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	
山口大学		9 (3) <1> [5] {1}		9 (2) <4> [1] {1}		8 (2) <1> [4] {0}		13 (5) <3> [5] {0}		11 (5) <4> [1] {1}	10.0 (3.4) <2.6> [3.2] {0.6}
鹿児島大学	19	6 (1) <1> [4] {3}	19	6 (2) <2> [1] {0}	21	7 (2) <3> [2] {0}	20	4 (0) <1> [2] {1}	20	6 (0) <2> [4] {2}	5.8 (1.0) <1.8> [2.6] {1.2}
鳥取大学		4		4		6		3		3	4.0

※ 上記人数は 4 月入学及び 10 月入学の合計である。

※2 ()内は同大学共同学部からの内部進学者で内数、< >内は留学生で内数、[]内は社会人で内数、{ }内は同県在住社会人で内数である。

山口大学から山口連獣への内部進学者数は、過去 5 年間に 2～5 人で推移しており、平均は 3.4 人であった。一方鹿児島大学からの内部進学者数は、0～2 人で推移し、平均は 1.0 人であった。山口大学及び鹿児島大学における留学生数の 5 年平均は、それぞれ 2.6 人及び 1.8 人であり、2 大学で 4.4 人となった。山口大学及び鹿児島大学における社会人入学者数の 5 年平均は、山口大学と鹿児島大学で、それぞれ 3.2 人と 2.6 人、2 大学で 5.8 人であった。社会人入学者の中でも、大学院の設置県（山口大学であれば山口県、鹿児島大学であれば鹿児島県）からの社会人入学者数は、それぞれ 0.6 人と 1.2 人であった。以上の実績を基に、新たな共同獣医学研究科設置に向けて実施したアンケート調査の結果を解析し、両大学に設置される新共同研究科における入学定員の妥当性を検討した。

(2) アンケート調査の実施

入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、平成 28 年 10 月から 11 月にかけて、山口大学及び鹿児島大学共同獣医学部在学学生（3～6 年生）、社会人（47 獣医師会、49 地方自治体、47 NOSAI 連合会、33 関連企業等）、国内外獣医系大学（14 国内大学、6 国外大学）を対象とし「共同獣医学研究科設置に関するアンケート」を行い、表 4 のとおり 2,351 人からの回答を得た。

表 4：対象別の回答者数

区 分	回答者数（人）
農学部獣医学科 6 年、及び共同獣医学部獣医学科 3～5 年在学生	224
自治体、NOSAI、動物病院、及び獣医関連企業等	1,800
国内外獣医系大学	327
計	2,351

(2-1) 在学生へのアンケート調査の結果

在学生を対象に将来の希望する進路について質問（複数回答可）したところ、動物病院（イヌ・ネコの診療等）が最も多く、次いで公務員が多かった。進学（博士課程や海外の大学等への進学）を選択肢の一つとして考えている学生が、山口大学 19 人（全体の 18%）、鹿児島大学 20 人（全体の 17%）いることがわかった（表 5）。

表 5：将来希望する進路（複数回答可）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学計
動物病院（イヌ・ネコの診療等）	61	64	125
公務員（県庁や農林水産省等）	38	40	78
民間企業（飼料・製薬会社等）	19	22	41
共済組合（ウシ・ブタの診療等）	18	29	47
進学（博士課程や海外の大学等）	19	20	39
その他	12	7	19
合 計	167	182	349

表 6：充実が必要と考える分野（複数回答可）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学計
基礎獣医学	30	40	70
動物衛生・公衆衛生獣医学	29	48	77
伴侶動物獣医学	22	35	57
産業動物獣医学	20	30	50
その他	0	6	6
合 計	101	159	260

表 7：大学院への内部進学志向

（単位：人）

区 分	山口大学共同 学部在学生の 同大学共同研 究科への入学 希望者	鹿児島大学共 同学部在学生 の同大学共同 研究科への入 学希望者	2 大学在学生 の共同研究科 への入学希望 者
進学したい(A)	2	2	4
将来的に進学したい(B)	7	8	15
就職後進学したい(C)	16	17	33
進学したいが事情により困難	14	20	34
希望しない	46	43	89
わからない、その他	22	27	49
合 計	107	117	224
1 年あたりの新規内部進学者見込者数	-0.6	2.0	1.4

※ 上記は 4 学年のアンケート総数であり、1 年あたりの新規母校進学見込者数は、(A) を 4 学年で除した数に、(B) 及び(C) を 10 年間で進学するものとして除した数を、加算した上で、山口連獣の平均一般進学者数（山口大 3.4 人、鹿児島大 1.0 人、両大学 4.4 人）を差し引いた数値である。

大学院教育（博士課程）において充実が必要な分野に関する質問（複数回答可）では、動物衛生・公衆衛生獣医学が最も多く、次いで基礎獣医学が多かった。臨床獣医学分野については、伴侶動物と産業動物分野が同程度を示した（表6）。

在学生の進学志向に関する質問では、「大学院へ進学したい」、「将来的に進学したい」、「就職後進学したい」、「進学したいが事情により困難」と回答した者から算出される1年あたりの新規母校進学者は、山口大0.6人、鹿児島大学2.0人、合計1.4人と見込まれた（表7）。

（2-2）社会人へのアンケート調査の結果

本共同獣医学研究科では、社会人について積極的に受け入れることとしており、そのニーズを把握するため、獣医関係社会人（全国の獣医師会、地方自治体、NOSAI、関連企業等）を対象として、アンケート調査を実施した。

大学院教育（博士課程）において充実が必要な分野に関する質問（複数回答可）では、応用獣医学分野とする回答が最も多く、次いで臨床獣医学分野が多かった（表8）。

博士（獣医学）の需要に関する質問では、「増える」と回答した者が22.3%であり、社会人の4人に1人が博士（獣医学）の学位取得の必要性を肯定していることが示された（表9）。

表8：充実が必要と考える分野（複数回答可）

区 分	回答者数（人）
基礎獣医学（解剖・生理・薬理等）	786
応用獣医学（病理・感染症・食肉衛生等）	1,425
臨床獣医学（内科・外科・繁殖等）	965
その他	120
合 計	3,296

表9：獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要

区 分	回答者数（人）
増える(A)	399
変わらない	684
減る	109
わからない	591
合 計(B)	1,783
獣医学における博士課程の必要性(A)/(B)	22.3%

働きながら就学できる大学院の必要性に関する質問では、「絶対に必要」、「必要」、「どちらかといえど必要である」と回答した者が90.9%であり、社会人の大学院への進学志向が非常に高いことがわかった。このことから、学部卒業後、一旦、就職し、実務に従事する中で、様々な課題に直面し、大学院での教育を受けて専門性を高め、更なる知識・技術を習得したいと考えている社会人が多いことが想定された（表10）。

表 10：仕事をしながら就学できる大学院の必要性

区 分	回答者数（人）
絶対に必要だと思う (A)	218
必要だと思う (B)	841
どちらかという必要だと思う (C)	569
必要と思わない	132
その他	30
合 計 (D)	1,790
大学院の必要性 $((A)+(B)+(C))/(D)$	90.9%

地域密着型の共同研究科を設置することによって、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数が増えることが期待される。山口県と鹿児島県に在住の社会人によるアンケート結果によると、新たな山口県在住社会人の山口大学入学希望者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学希望数は、それぞれ山口大学0.1人、鹿児島大学0.5人の増となった（表 11）。また同アンケートにおいて、全国から本共同獣医学研究科への社会人入学希望者数は 5.8 人であり、山口連獣における 2 大学への入学者実績（最近 5 年間の平均で 5.8 人／年）と同程度の社会人入学者数が期待できると考えられた（表 11）。

表 11：山口大学と鹿児島大学による共同獣医学研究科への入学希望

(単位：人)

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院 への入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
入学したい(A)	1	1	4
将来的に入学を検討したい(B)	4	16	54
入学したいが経済的に困難	1	21	104
入学したいが時間的に困難	8	29	220
入学したいがその他の理由で困難	1	0	60
希望しない	67	136	1,332
未回答、その他	7	0	92
合 計	90	203	1,800
※1年あたりの県内の新規社会人入学者見込者数	−0.1	0.5	0

※ 1年あたりの新規社会人見込者数は、(A)及び(B)が10年間で進学するものとして、(A)と(B)の和を10で除した値から、山口連獣の社会人入学者の5年平均値のうち、山口県在住社会人の入学者数(0.6人)、鹿児島県在住社会人の入学者数(1.2人)、及び全国からの社会人入学者数(5.8人)を差し引いた数値である。

(2-3) 国外獣医系大学へのアンケート調査の結果

山口連獣の修了生による海外ネットワークを活用しながら、新たな共同獣医学研究科にも海外からの多くの留学生を引き続き入学者として受け入れることができると期待されている。同海外ネットワークを通じて行った外国人を対象としたアンケート結果では、留学生の共同研究科への入学希望者数は13.9人であり、山口連獣の留学生入学者数の5年実績（2大学で平均4.4人／年）を差し引くと、新たに9.5人の新規留学生の入学希望者が見込まれる（表12）。これは、おそらく経済的な理由により実質的な数値とは言えないものの、大学推薦国費留学生の活用等、経済的支援によりその増数は期待できる。

表12：新規留学生見込数

区 分	留学生の 共同大学院への入 学希望者数（人）
入学したい(A)	139
希望しない	32
合 計 (D)	171
入学したい (A)/(D)	81.3%
*山口連獣修了者のいる海外の獣医系大学からの1年あたりの新規留 学生入学者見込者数	9.5

※ 新規留学生見込者数は、(A)が10年間で進学するものとして(A)を10で除した値から、山口連獣の留学生入学者数の5年平均（2大学平均4.4人）を差し引いた数値である。

また教員または研究者として国外の獣医系大学で勤務している山口連獣修了者に対して行った『山口大学大学院・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科を勧めますか』という質問に対して、100%が勧めると回答している（表13）。

表13：国外獣医系大学における学生への入学推奨

区 分	回答者数（人）
勧める(A)	13
勧めない	0
合 計 (B)	13
入学を勧める (A)/(B)	100%

ウ) 学生納付金設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年3月31日文科科学省令第16号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学科及び検定料の額を標準とし、各大学において設定する。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

(1) 学生の確保

山口大学と鹿児島大学は、我が国の獣医学教育モデル・コア・カリキュラムよりも幅広い知識と実践的な獣医技術の付与を求める欧米水準の獣医学教育認証取得を目指した学士課程教育を形成している。この教育認証は、学士課程を補い強化するための卒後教育プログラムとして、研究者養成を目的とする PhD プログラムだけでなく、獣医専門職、認定医・専門医プログラム、及びインターンシップ等、獣医師への多様な国際社会ニーズに対応した卒後教育を提供することを求めている。

新たな共同獣医学研究科においては、欧米水準の幅広い獣医学的知識と技能を身につけた獣医学士課程修了者の求める多様な進路選択に対応するとともに、学生確保に向けた具体的な取組として欧米水準の獣医学士課程を修了していない獣医師・獣医学研究者へも総じて、専門的技術と能力を研鑽できる高度獣医学専門家養成プログラムを提供する。具体的には、以下の点で、戦略的かつ意欲的なプログラムを想定している。

共同獣医学研究科では、高度な研究者養成に重点を置く研究者養成のための「獣医科学コース」に加え、実験動物医学・病理学等の専門医取得あるいは附属動物病院における卒後臨床研修と、大学院における研究及び学位取得とを両立できる「獣医専修コース」を、国内の獣医系大学に先んじて開設する。

また、獣医療系の職場や家畜保健衛生／保健福祉行政等の職場などで経験を積む社会人獣医師についても、いわゆる 14 条特例を適用し積極的に受け入れること及び必要に応じて集中講義や実習を行うこと等を適切に周知する。地理的に遠隔地にある 2 大学による教育を効果的に行うため、共同獣医学部教育で使用している遠隔講義システムを活用した教育を行う。同じく、Web マルチメディア LMS (Learning Management System の略) である Glexa (グレкса) を活用して、クラス・学生管理、教材・問題管理、試験・成績管理、会話・面接学習、協調学習、動画学習、モバイル学習を行う。校地外にいる大学院生に対してもストリーミング配信を使用して教員・学生間でのビデオチャットや授業配信、あるいは受講した試験やテスト、レポートの採点を行うことが容易に行えるようになり、新共同研究科への社会人入学者数の確保に役立てる。

Ⅱ 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

山口大学と鹿児島大学は、共同獣医学部における教育の方法と内容を国際水準のものとすべく、EAEVE（欧州獣医学教育評価機構、European Association of Establishments for Veterinary Education の略）による認証取得に向けて教育改革を推進している。次のステップとして、欧米の獣医学教育に必須とされる「学部卒業者に対して学士課程を補い強化するための Advanced Postgraduate Degree Program の提供」に向けて、多様な教育システムの創出に、我が国の獣医学教育機関として初めて取り組む。

世界先端的な獣医学研究を推進し、生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成とともに、地域・国際社会における多様な獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家及び指導的獣医療人を養成して、人間地球社会の発展に貢献することを目的としている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア) 人材需要の動向と社会の要請（まとめ）

【大学等における教員及び研究者としての需要】

国内の全獣医系大学には、我が国の獣医学教育モデル・コア・カリキュラム、及び参加型臨床実習を自大学の教員によって実施できる体制を構築すべく、大学院における獣医系教員の養成に一層力を注ぐことが求められている。

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal からの提供データによると、平成 23～27 年度の農学・動物生命科学分野の大学教員（助教相当）／研究員／ポストドク求人数は年平均 56.0 人であり（参考資料 1）、獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議が示した平成 21～24 年度の全国獣医系大学院修了者の大学・研究機関研究職就職者数の年平均 36.5 人（参考資料 2）を大きく上回っており、この分野における研究者需要は未だ高いことが見込まれる。

山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における入学定員は、山口大学 6 人、鹿児島大学 6 人と設定している。JREC-IN Portal からの同提供データによると、山口県及び鹿児島県における獣医系大学院修了者が応募対象となる研究者求人数の年平均はそれぞれ 4.2 人及び 3.8 人となっており（参考資料 3）、本共同獣医学研究科修了者のうち各大学における研究職志望者数（全体 6 人の 30%に相当）2 人を十分に上回る。

【社会人及び留学生修了者の需要】

JREC-IN Portal からの同提供データによると、民間企業からの研究者求人数は年平均 2.8 人と非常に少ない。その一方で、同協力者会議が示したデータでは、年平均 52.8 人の修了者が企業等（開業獣医師、公務員、民間会社等）に就職している。すなわち、企業等においては、修了者を新規採用として求人するよりも、社員を社会人学生として大学院に入学させ、修了後も前職に復帰させる傾向が高いことがうかがわれる。これと同様に、同協力者会議が示した大学院修了者の 25.2%は、留学者修了生の割合に相当しており、留学者の大学院修了生も母国で活躍する国際的な人材需要となっている。山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における入学定員のうち、大学等での研究者志望者（毎年 2 人と仮定）を差し引いた 4 人は、社会人または留学者需要に相当する。

以上のことから、大学等の研究者需要、企業等からの社会人修了者需要、及び海外の研究機関からの留学生修了者の需要は、過去の山口連獣の実績と同様、本共同獣医学研究科の修了者数に対して十分であると見込まれる。

【山口連獣の実績から新規に見込まれる人材需要】

これまでの山口連獣における2大学の実績においては、過去5年間の平均修了者数は、山口大学6.6人、鹿児島大学3.8人、合計10.4人となっており、今後、少なくとも同程度の社会的需要はあると見込まれている（表15）。

山口連獣における実績が山口大学に比して少なかった鹿児島大学においては、鹿児島大学で主指導を受けた山口連獣修了者を採用したことのある企業等（主に九州地区の企業、及び鹿児島大学卒業生の企業等）を中心としたアンケート追加調査を実施した。その結果においては、企業等による獣医学分野の博士人材の採用の可能性は極めて高く、新規に見込まれる大学院博士課程修了者の採用者数は、鹿児島大学において1年あたり3.7人であると推計された（表21）。

前記のように、社会人が修了後に勤務先に回り活躍することも人材需要と考えられる。地域密着型の共同研究科を設置することによる、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数の見込み増を勘案すると、1年あたり、山口大学-0.1人、鹿児島大学0.5人、合計0.4人となる（表25）。

また、留学生が母国で活躍することを国際的な人材需要と考え、入学志願者数が即ち海外での人材需要となり、2大学への新たな留学生入学志願者数、毎年9.5人が国際的な需要と見込まれる（表26）。

以上、表14に示すように、山口連獣の実績に加え、上記の新規人材需要データに基づき、山口大学6.5人、鹿児島大学8.0人、2大学で19.9人の人材需要が新たに見込まれることから、本共同獣医学研究科における入学定員規模の進路は恒常的かつ安定的に確保されると想定される。

表14：総表（1年あたり）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2大学
山口連獣修了者の実績(表15)	6.6	3.8	10.4
新規に見込まれる企業等の人材需要(表21)	—	3.7	—
社会人の動向（前職復帰）に基づく新規人材需要(表25)	-0.1	0.5	0.0
留学生の動向（帰国）に基づく新規人材需要(表26)	—	—	9.5
合 計	6.5	8.0	19.9

イ) 人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

（1）人材の養成に関する社会的な要請

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データに基づき、農学・動物生命科学分野における平成23～27年度の大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況を解析した。下表（参考資料1）に示すように、獣医系大学院修了者が応募の対象となる研究者求人数は、45～82人／年（年平均56.0人）となっている。また民間企業からの研究者としての求人数は少なく（全体の5%）、企業等では、社員を社会人学生として大学院に入学させ、修了後は前職に復帰する傾向が高いことがうかがわれる。

参考資料 1. : 研究機関別の大学助教相当／研究員／ポスドクの求人状況 (単位: 人)

年度	国立大学	私立大学	公立大学	民間企業	計
平成 23 年度	33	9	2	1	45
平成 24 年度	26	14	2	3	45
平成 25 年度	55	24	0	3	82
平成 26 年度	33	18	1	2	54
平成 27 年度	39	10	0	5	54
平 均	37.2	15.0	1.0	2.8	56.0

「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が実施した大学院進学者に関する追跡調査の分析結果によると、平成 21～24 年度の修了者数は 477 人（日本人 359 人、留学生 118 人、年平均 119.3 人）、学位取得者は 426 人（日本人 315 人、留学生 111 人、年平均 106.5 人）となっている。大学院修了者の 30.6%にあたる 146 人、1 年あたり平均に換算すると 36.5 人が、大学・研究機関の研究職として就職しているが、上記の JREC-IN Portal 提供データにおける研究者の年平均求人数 56.0 人には達しておらず、この分野における研究者の需要は未だ高いことが見込まれる。

参考資料 2. : 平成 21～24 年度の国内獣医系大学院の修了者の就職状況

職種	大学の研究職	小動物獣医師	大動物獣医師	公務員／農林水産	公務員／公衆衛生	公務員／その他	会社／食品・製薬	会社／その他	その他	計
修了者数 (A) (人)	146	55	12	16	30	8	70	20	120	477
(A) / 4 年 (%)	30.6	11.5	2.5	3.4	6.3	1.7	14.7	4.2	25.2	100

※ 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議資料より引用（平成 25 年 12 月、第 14 回）

同協力者会議において、「大学院の充実に関する議論の際も、獣医師養成を目指す学部段階の教育を国際的な水準に到達させることが強く意識され、大学院教育を充実させるべき理由として第一に挙げられたのが、教育体制の整備、なかんずく十分な数の教員を確保することの重要性」が議論されている。即ち国内の全獣医系大学において、モデル・コア・カリキュラムを自大学に所属する教員で実施する体制を構築すべく、大学院における教員養成に一層力を注ぐべきとの指摘があり、特に、学部段階の教育の充実という観点から参加型臨床実習の展開が急務とされていることを踏まえ、適切に学生を指導できるよう、全国的に不足が叫ばれているこの分野の大学教員の養成と確保に取り組むことが求められている。共同獣医学研究科では、両大学共同獣医学部からの内部進学者を修了させ、次世代を担う欧米水準の教育研究者として養成することを企図している。

加えて、企業等における研究者として学位取得者を就業させなければならない。山口大学では西日本、鹿児島大学では九州を中心とした自治体や企業等から入学する社会人学生を受け入れ、製薬会社等の動物実験専門家、あるいは食肉検査所等における病理学専門家としての知識や技術も身につけて、課程修了後は前職に復帰して、同企業等組織内における後進の研究指導、及び各共同獣医学研究科への新たな

入学者の基盤を担う。また留学生は母国に帰国して、自国の研究者・あるいは教育者として活躍するとともに、共同研究科修士による海外ネットワークを拡げて、新たな留学生を共同研究科へと導く。

(2) 山口連獣における修了者の実績

平成 23 年度から 27 年度における山口連獣の両大学の修了者実績としての平均修了者数は、山口大学 6.6 人、鹿児島大学 3.8 人であった。ただし、修了者数は年度によりばらつきがあり、これは女子学生の増加による出産等で休学する学生が増えたこと、社会人学生が経済的理由により 4 年間で修了できないケースが増えたことによるものと考えられる。修了者の進路状況では、診療獣医師を含む民間企業等の獣医師及び研究者が 24 人（山口大学 15 人、鹿児島大学 9 人）と突出して多いが、それに次いで大学における教員や研究者が 11 人（山口大学 8 人、鹿児島大学 3 人）となっている（表 15、16、17）。

表 15：山口連獣における修了者の実績

(単位：人)

区 分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合 計	平 均
山口連獣全体	20	22	20	20	7	89	17.8
山口大学	7	5	8	9	4	33	6.6
鹿児島大学	8	3	3	4	1	19	3.8
2 大学計	15	8	11	13	5	52	10.4

※山口大学及び鹿児島大学は、両大学配置の学生数で、山口連獣全体の内数である。

表 16：修了者進路別内訳

(単位：人)

区 分		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合 計
大 学	山口大	3	0	2	2	1	8
	鹿児島大	1	0	1	0	1	3
公務員 (研究所等)	山口大	0	0	0	0	1	1
	鹿児島大	0	0	1	0	0	1
民 間	山口大	3	3	3	5	1	15
	鹿児島大	5	2	0	2	0	9
団体等	山口大	0	0	1	0	0	1
	鹿児島大	1	0	0	1	0	2
海 外	山口大	1	0	1	2	1	5
	鹿児島大	0	1	1	1	0	3
未 定	山口大	0	0	0	0	0	0
	鹿児島大	0	0	0	0	0	0
その他	山口大	0	2	1	0	0	3
	鹿児島大	1	0	0	0	0	1
計	山口大	7	5	8	9	4	33
	鹿児島大	8	3	3	4	1	19
2 大学計		15	8	11	13	5	52

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal から提供された農学・動物生命科学分野における平成 23～27 年度の大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況によると、下表（参考資料 3）に示すように、山口県及び鹿児島県における獣医系大学院修了者が応募の対象となる研究者求人数は、それぞれ一年間あたり 4.2 人及び 3.8 人となっている。山口連獣における山口大学と鹿児島大学の修了者の実績によると、1 年あたり 1～2 人の修了者が大学等の研究者として就職しているが、各県における研究者としての求人数はそれを上回っている。また学生定員を各大学 6 人とした場合、修了者の 30%（平成 21～24 年度の国内獣医系大学院の修了者数 477 人の 30.6%が大学の研究者として就職している）にあたる 2 人が大学等の研究者となることを想定しても、各県の求人数はそれを上回ることが見込まれる。

参考資料 3.：山口県及び鹿児島県における研究機関別の大学助教相当／研究員／ポスドクの求人数（人）

年度	山口県	鹿児島県	計
平成 23 年度	2	3	5
平成 24 年度	2	1	3
平成 25 年度	12	5	17
平成 26 年度	3	3	6
平成 27 年度	2	7	9
平 均	4.2	3.8	8.0

また同提供データに基づき解析した、岡山・広島・山口・島根県、四国地区、及び九州地区における農学・動物生命科学分野の大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況（参考資料 4）では、岡山・広島・山口・島根県、四国地区の年平均求人者数が 6.2 人、九州地区の年平均求人者数が 7.8 人となっている。上記のように、山口連獣における修了者の実績（各大学から 1 年あたり 1～2 人の修了者が研究者として就職）と比較すると、各大学の周辺県における研究者としての求人数はそれを十分に上回っていることが見込まれる。また学生定員を各大学 6 人とした場合、修了者の 30%にあたる 2 人が大学等の研究者となることを想定しても、各県周辺地区の研究者求人数はそれを上回ると見込まれる。

参考資料 4.：岡山・広島・山口・島根県、四国地区、及び九州地区における研究機関別の大学助教相当／研究員／ポスドクの求人数（人）

年度	岡山・広島・ 山口・ 島根・四国	九州	計
平成 23 年度	4	7	11
平成 24 年度	2	5	7
平成 25 年度	13	6	19
平成 26 年度	6	7	13
平成 27 年度	6	14	20
平 均	6.2	7.8	14.0

表 17：山口連獣における最近の具体的な進路先

区分	ア 研究者	イ 大学教員	ウ 獣医師	その他・未定
山口大学	【H23】(1) - 山口大学 【H24】(3) - 大日本住友製薬(株) - 昭和電工(株) - 大塚製薬(株) 【H25】(2) - 大阪大学微生物病研究所 (一財)化学物質評価研究機構 【H26】(4) - 山口大学(阪大研修) - 日本全薬工業(株) (一財)化学及び血清療法研究所 (株)ボゾリサーチセンター 【H27】(2) - 和歌山県立医科大学 - 国立感染症研究所	【H23】(3) - 宮崎大学農学部 - 山口大学共同獣医学部 - ベシヤワールヘッドルポトンプ - ア農科大学獣医学部 (パキスタン) 【H25】(2) - Southvalley 大学教員 (エジプト) 山口大学共同獣医学部 【H26】(3) - 山口大学共同獣医学部 - Vietnam National University, Agriculture (HANOI、ベトナム) - Insit Recherche Ecologi Tropical (IRET/CENAIST)(ガボン) 【H27】(1) - 西パプア州立大学(インドネシア)	【H23】(3) - Kyoto AR(京都動物高度医療センター) - 寺園動物病院 - 秋吉サファリランド 【H25】(3) - アイデックスラボトリース(株) - ファミリー動物病院 - 米子動物医療センター 【H26】(2) - 高木動物病院 - 長崎県中央家畜保健衛生所 【H27】(1) (株)Guardian	【H24】(2) - 山口県立総合医療センター - 日本臓器製薬(株) 【H25】(1) - ASKLEP 東京(医薬品/専門コンサルタント)
鹿児島大学	【H23】(2) (一財)化学及び血清療法研究所 (株)新日本科学 【H25】(1) - 鹿児島大学共同獣医学部 【H26】(2) - 大塚製薬(株) - 大鵬薬品工業(株) 【H27】(1) - 鹿児島大学共同獣医学部	【H23】(1) - 鹿児島大学共同獣医学部(病院特任教員) 【H24】(1) - チッタゴン獣医動物科学大学(バングラデシュ) 【H25】(1) - チッタゴン獣医動物科学大学(バングラデシュ) 【H26】(1) - Agricultural University (バングラデシュ)	【H23】(4) - 丸紅畜産生産技術室 - Greenfield International Co Ltd - 折尾動物病院 - 日本軽種馬協会 【H24】(2) - 城南さくま動物病院 (有)シェパード中央家畜診療所 【H25】(1) - 山口県環境保護センター 【H26】(1) - 鹿児島県曾於農業共済組合	【H23】(1) ブータン政府農業省

(3) 企業等へのアンケート調査の結果

獣医学分野の人材を採用している地方自治体、研究機関、農業団体、民間企業等(以下「企業等」という。)に勤務する獣医師にアンケート調査を行った。なお、業種については表 18 のとおりである。

表 18：企業等へのアンケートの業種内訳数

区 分	回答者数(人)
地方自治体	1,149
組合(農業団体等)	327
獣医師関連企業	215
動物病院	131
合 計	1,822

企業等に獣医学分野における大学院教育（博士課程）の社会的需要について、調査を行ったところ、博士の人材養成について 22.3%が増えると考えており、博士（獣医学）の資格を有する人材ニーズがあることが示唆された（表 19）。

表 19：企業等における博士人材のニーズ

区 分	回答者数（人）
増える(A)	399
変わらない	684
減る	109
わからない	591
合 計(B)	1,783
獣医学における博士課程の必要性(A)/(B)	22.3%

鹿児島大学においては、鹿児島大学で主指導を受けた山口連獣修了者を採用したことがある企業等を中心にアンケート追加調査を実施した。本共同獣医学研究科修了生の採用の可能性について、「積極的に採用する」及び「採用する」との回答が 80%であり、高いニーズが示された（表 20）。

表 20：企業等による鹿児島大学共同獣医学研究科修了者の採用の可能性

区 分	回答機関数
積極的に採用する(A)	33
採用する(B)	7
採用する可能性がある	7
採用しない	0
その他	3
合 計 (D)	50
採用の可能性 $((A)+(B))/(D)$	80%

上記のアンケートを踏まえ、以下の推計を行った。アンケートに回答のあった企業等のみにあっても、1 年あたり鹿児島大学 3.7 人、博士課程修了者の採用が見込まれる（表 21）。

表 21：企業等における鹿児島大学共同獣医学研究科修了者への新たなニーズ

区 分	回答機関数
積極的に採用する(A)	33
採用する(B)	7
採用する可能性がある	7
$(A) \times 1.0 + (B) \times 0.5$	36.5
1 年あたりの企業等での新たな需要数 $[(A)+(B)+(C)]/10$ 年	3.7 人

※1 採用人数については、複数人以上の採用も想定されるが 1 社につき 1 人とした。

※2 積極的に採用したい(A)を調整数 1.0、できれば採用したい(B)をその半分の調整数 0.5 とし、10 年間で採用されるものと想定した。

さらに、数年間における博士人材の採用実績を調査したところ、現状は表 22 のとおりであり、これまでの採用実績（回答企業等の 28%が採用実績有）は高かったとはいえないが、表 21 の調査から今後の採用の可能性は大きく広がっていると考えられる。

表 22：企業等における博士人材の採用実績

区 分	回答機関数
実績なし	34
1 人	8
2 人	5
3 人	0
4 人以上	1
未回答	2
合 計	50

※ 鹿児島大学が行った追加アンケートの結果である。

企業等に勤務する獣医師に、大学院教育（博士課程）において特にどの分野を必要しているか調査をしたところ、表 23 のとおりであった。（複数回答可）

表 23：企業等において必要としている分野（複数回答可）

区 分	回答者数（人）
基礎獣医学（解剖・生理・薬理等）	786
応用獣医学（病理・感染症・食肉衛生等）	1,425
臨床獣医学（内科・外科・繁殖等）	965
その他	120
合 計	3,296

社会人学生は、課程修了後に勤務先に戻ることを新たな需要と見込んで、山口県在住社会人の山口大学入学者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学者数の増加分（山口大学-0.1 人、鹿児島大学 0.5）を、需要増の人数として用いた。ただし、両大学への全国からの共同獣医学研究科への社会人入学希望者数（5.8 人）は、山口連獣における 2 大学の実績（5.8 人）と同数であったため、これによる需要増とはならなかった（表 24、25）。

表 24：大学院の設置される都道府県の社会人、及び全国 of 社会人入学の希望（単位：人）

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院 への入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
入学したい(A)	1	1	4
将来的に入学を検討したい(B)	4	16	54
合 計 (C)	5	17	58
1 年あたりの入学希望者 [(C)/10 年]	0.5	1.7	5.8

表 25：社会人が前職に戻ることに伴う必要

(単位：人)

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院 への入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
山口連獣の社会人入学者実績(A)	0.6	1.2	5.8
共同獣医学研究科への社会人の新たな 入学希望者(B)	0.5	1.7	5.8
共同獣医学研究科を修了した社会人が 派遣元に戻ることに伴う新たな必要数 (B)－(A)	－0.1	0.5	0.0

※1 (A)は、山口連獣の過去5年間の社会人入学者の平均実績である。

※2 (B)は、アンケートの推計による社会人の入学希望者数(表24)である。

※3 (B)には、(A)が含まれることを勘案し、(B)より(A)を差し引いた。

(4) 国外獣医系大学へのアンケート調査の結果

本共同研究科における国際的な需要の主要要素として入学した留学生は、全て母国で活躍するものとし、山口連獣の過去5年間の実績を基に推計した。その結果、毎年度、新たに留学生9.5人が国際社会で活躍するものと見込まれる(表26)。

表 26：新規留学生見込数(再掲)

区 分	機関数/人数
アンケート実施機関数(A)	6校
(A)からの留学生入学者見込み数(B)	13.9人
山口連獣における2大学の留学生入学者数実績(C)	4.4人
共同研究科を修了した留学生が母国に戻ることに伴う新たな必要数(D)	9.5人

※1 (A)は、山口連獣の修了生の勤務する大学や研究機関である。

※2 (B)は、外国人学生に対するアンケートの推計による留学生の入学希望者数(表12)である。

※3 (B)には、(C)が含まれることを勘案し、(B)より(C)を差し引いて、(D)を算出した。

資 料

- 資料 1 山口大学・鹿児島大学共同獣医学研究科設置に関する
アンケート調査票
- 資料 2 山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想
(アンケート調査実施時に配付)

平成 28 年 11 月 1 日

関係機関および部局の長 殿

山口大学・鹿児島大学大学院
共同獣医学研究科設置合同準備委員会
岩田祐之（山口）・三角一浩（鹿児島）

山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科設置に関する
アンケート調査の依頼について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、大学教育にご助言とご指導を賜りありがとうございます。

さて、このたび山口大学と鹿児島大学は、長きに渡って多くの獣医学博士を輩出してきた山口大学大学院連合獣医学研究科を発展的に解消し、平成 30 年 4 月より両大学に新たな獣医学研究科を設置し、共同で大学院を運営する組織作りを進めています。全国で初の取り組みとなる『共同獣医学研究科』では、両大学の獣医学研究者が一丸となって、各大学特有の教育研究資源を活かした地域の諸課題解決に資する研究を展開すると共に、両大学が得意とする研究領域から先進的な知見を相互補完的に教授することで、先端的な獣医学研究を俯瞰できる人材を養成します。共同獣医学研究科では、学部教育と同様に遠隔講義システムを使用して、授業の実質化を担保すると共に、国内外の連携機関における演習や実験、獣医学を含む専門性の高い学会での発表を推進して、国内外の生命科学界において幅広く活躍できる能力を培います。

このたびの共同獣医学研究科の設置に向けて、その教育研究内容等を充実させるための参考資料とすることを目的に、アンケート調査を実施することとなりました。このアンケートは、地方自治体、獣医師会、獣医関連企業、ならびにこれまで私どもの大学から卒業した学生の就職先へ配布させていただいております。ご多忙の中おそれ入りますが、同封のアンケート用紙へご記入の後、機関毎にとりまとめのうえ、同封の封筒にて 11 月 30 日までにご返送くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、共同獣医学研究科の詳細につきましては、添付の資料『山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想』をご覧ください。

敬具

調査対象

①全国獣医系大学

②地方獣医師会（伴侶動物病院への依頼を含む）

③地方自治体（全国都道府県、鹿児島市、山口市）

畜産課・家畜保健衛生所等、生活衛生課・食肉衛生検査所等、獣医師の勤務する支所等

④獣医関連企業（全国 NOSAI 連合会、全国 JA 連合会）

産業動物獣医師が勤務する NOSAI 支所および診療所等

⑤両大学共同獣医学部在校生（3年生以上）

⑥海外の獣医学教育研究機関

書類送付先

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番24号
鹿児島大学共同獣医学部総務係気付「共同獣医学研究科設置準備室」宛

問合せ先

山口大学共同獣医学部 教授 岩田祐之 宛

Tel: 083-933-5899, Fax: 083-933-5900, E-mail: hiwata@yamaguchi-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部 教授 三角一浩 宛

Tel: 099-285-8731, Fax: 099-285-8732, E-mail: kaz_msm@vet.kagoshima-u.ac.jp

1. 全国獣医系大学

アンケート回答者について

- 回答者の役職・職務等をお選びください。

1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. その他 ()

1. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

1. 増える 2. 今と変わらない 3. 減る 4. わからない

2. 今後どのような獣医学研究者が必要であると思いますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学 2. 動物衛生・公衆衛生獣医学 3. 伴侶動物獣医学
4. 産業動物獣医学 5. その他 ()

3. 我が国の獣医学の大学院教育は今以上の質の向上が必要であると思いますか？

1. 必要である 2. 必要でない 3. わからない

3－2. 「必要である」と回答された場合、以下の質問にお答えください。

質の向上には、どのような教育の改善が必要だと思いますか？（複数回答可）

1. 教育研究内容の高度化 2. 教育研究範囲の拡大 3. 履修単位数の増加
4. 関連科目の必修単位化
5. その他 ()

4. 獣医学研究科の質向上を実践するにはどのような方法が望ましいと思いますか？（複数回答可）

1. 授業カリキュラムの充実 2. 教員の質の向上 3. 研究機材の充実
4. 研究フィールドの充実
5. その他 ()

5. 将来の獣医学研究科の充実にはどのような方法が最も理想的だと思いますか？

1. 各大学での自助努力 2. 大学間での連携教育 3. 大学間での再編統合
4. その他 ()

6. その他ご意見を自由にお書き下さい。

[]

⑤両大学在校生

アンケート回答者について

- 何年生ですか？ 1. 3年生 2. 4年生 3. 5年生 4. 6年生
- どちらの大学ですか？ 1. 鹿児島大学 2. 山口大学

1. 獣医師としてどのような進路を目指していますか？（複数回答可）

1. 動物病院（イヌ・ネコの診療等）
2. 公務員（県庁や農林水産省等）
3. 民間企業（飼料・製薬会社等）
4. 共済組合（ウシ・ブタの診療等）
5. 進学（博士課程や海外の大学等）
6. その他（ ）

2. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

1. 増える
2. 今と変わらない
3. 減る
4. わからない

3. 今後どのような獣医学研究者が必要であると思いますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学
2. 動物衛生・公衆衛生獣医学
3. 伴侶動物獣医学
4. 産業動物獣医学

4. 獣医系の大学院を持つ大学を知っていますか？

1. 全て
2. 半分以上
3. 半分以上
4. 知らない

5. 我が国の獣医学の大学院教育は今以上の充実が必要であると思いますか？

1. 必要である
2. 必要でない
3. わからない

5－2. 「必要である」と回答された場合、以下の質問にもお答えください。

どのような教育分野の充実・強化が必要だと思いますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学
2. 動物衛生・公衆衛生獣医学
3. 伴侶動物獣医学
4. 産業動物獣医学
5. その他（ ）

6. 獣医学の大学院教育の充実には何が必要だと思いますか？（複数回答可）

1. 教員
2. 設備
3. 研究材料
4. カリキュラム
5. その他（ ）

⑥海外の獣医学教育研究機関

A request for a questionnaire

To Whom It May Concern,

I hope all of you are doing well. I am sending this e-mail to whom Doctoral Course has been completed in the United Graduate School of Veterinary Science, Yamaguchi University.

Although the United Graduate School has produced so many excellent veterinary researchers, we are planning to disband the united school, and then establish a new joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University to enhance our educational strength. The new graduate school would be established on the basis of the concept that these two universities' different specialties such as small animal veterinary medicine in Yamaguchi University and large animal veterinary medicine in Kagoshima University. And also, it would make it possible to organize an educational curriculum mutually and complementarily.

Before applying permission for the establishment to government office, we would like to learn your thoughts, therefore, we are obtaining information via this questionnaire. Please answer the following questions, and send the form to the below email address.

Thank you for your cooperation.

Best Regards,

Hiroyuki Iwata
Vice-Dean,
Joint Faculty of Veterinary
Medicine,
Yamaguchi University
1677-1 Yoshida, Yamaguchi, 753-8
511
Japan

Please check the box on the form.

Q1. Are you an undergraduate student, teacher or researcher?

- ☐ Student
- ☐ Teacher
- ☐ Researcher
- ☐ Does not apply ()

For Student

Q2. Do you have a hope to go to the graduate school?

- ☐ Yes
- ☐ No

Q3. Which fields are you interested in? (multiple answers allowed)

- ☐ Basic science
- ☐ Preventive medicine of infectious disease
- ☐ Advanced technology of veterinary medicine
- ☐ Animal production
- ☐ Does not apply ()

Q4. Where do you hope to start postgraduate training?

- ☐ Europe and America
- ☐ Asia and Japan
- ☐ Home country
- ☐ Does not apply ()

Q5. Do you want to go to the joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University?

- ☐ Yes
- ☐ No

For Teacher or Researcher

Q2. Do you recommend going to the graduate school?

- ☐ Yes
- ☐ No

Q3. Which fields do you recommend to your students that they learn in the graduate school?
(multiple answers allowed)

- ☐ Basic science
- ☐ Preventive medicine of infectious disease
- ☐ Advanced technology of small animal veterinary medicine
- ☐ Animal production of large animal veterinary medicine
- ☐ Does not apply ()

Q4. Where is the recommendation that the students start postgraduate training?

☐ Europe and America

☐ Asia and Japan

☐ Home country

☐ Does not apply ()

Q5. Do you recommend going to the joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University?

☐ Yes

☐ No

平成 29 年 1 月 23 日

関係機関および部局の長 殿

鹿児島大学大学院
共同獣医学研究科設置合同準備委
員会

三角

一浩

鹿児島大学大学院共同獣医学研究科設置に関するアンケート調査の依頼について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、大学教育にご助言とご指導を賜りありがとうございます。

さて、このたび山口大学と鹿児島大学は、長きに渡って多くの獣医学博士を輩出してきた山口大学大学院連合獣医学研究科を発展的に解消し、平成 30 年 4 月より各大学に新たな獣医学研究科を設置し、共同で大学院を運営する組織作りを進めています。全国で初の取り組みとなる『共同獣医学研究科』では、学士課程を補い強化するための卒後教育プログラムとして、研究者養成を目的とする博士課程プログラムのみならず、獣医専門職、認定医・専門医プログラム、及びインターンシップ等、獣医師への多様な国際社会ニーズに対応した卒後教育を提供します。具体的には、以下のようなプログラムを想定しています。

1. 共同獣医学研究科では、高度な研究者養成に重点を置く研究者養成のための「獣医科学コース」に加え、実験動物医学・病理学等の専門医取得あるいは附属動物病院における卒後臨床研修と、大学院における研究（学位取得）とを両立できる「獣医専修コース」を、国内の獣医系大学に先んじて、開設します。

2. 生命科学研究への学部学生の興味を喚起し、早期から研究に取り組み、優れた研究者として養成するため、学士課程と博士課程を接続させて、最短 9 年間で獣医学士及び博士（獣医学）を取得させる「学部・研究科接続コース」の開設を模索します。

全ての学生が山口大学を本籍としていた連合獣医学研究科と異なり、共同獣医学研究科の学生は山口大学、又は鹿児島大学のいずれかを本籍校とすることになります。このたびは、鹿児島大学で初めてとなる大学院共同獣医学研究科設置のための参考資料とすることを目的に、アンケート調査（追加）を実施することとなりました。つきましては、ご多忙の中おそれ入りますが、添付のアンケート用紙へご記入の後、メールにて 1 月 31 日（火） までにご返送くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

